

1. 主な研究内容について

発達障害領域の作業療法を専門にしています。発達障害の方の作業療法相談、学校支援などの経験をもとに、臨床につながる研究をモットーにしています。

自閉症スペクトラム症の方の抱える日常生活の困難さの背景には、感覚・運動の問題が潜んでいることが多く、感覚・運動面に着目した支援・研究を行っています。現在取り組んでいるのは、「幼児期の自閉スペクトラム症児の感覚統合療法の効果(科研・研究代表者)」「青年・成人版 感覚・運動チェックリストの作成」「特別支援学校に通う ASD 児に対する作業療法士のコンサルテーション・モデルの開発(科研・分担研究者)」「自閉症スペクトラム児の食に関する行動障がい の重症度を測定する尺度 の開発(科研・分担研究者)」です。

2. 主な共同研究先

日本感覚統合学会効果研究委員会(首都大学東京、千葉県立保健医療大学の研究者と感覚統合療法の効果に関する共同研究を実施)

3. 今まで指導した学位論文名

<修士論文>

2009年度:『教育現場における発達に障害のある児童への指導上の困難さに関する研究—教育と連携した作業療法支援の検討—』

2010年度:『出生前後に診断された先天性水頭症患者と養育者への支援に関する調査研究』

2012年度:『広汎性発達障がい児の食嗜好と偏食への対応』

『多動性を伴う発達障がい児に対する介入の有効性に関する検証』

2014年度:『自閉スペクトラム症児の箸操作の困難さに関する研究』

『自閉スペクトラム症児の口腔機能と偏食に関する研究』

4. 主な論文

- ・立山清美, 伊藤 祐子, 赤松 めぐみ, 有川 真弓, 山田 孝, 山西葉子: 感覚統合療法の効果研究の現状と効果研究に用いる指標. 感覚統合研究 16(1), 1-7., 2016.
- ・伊藤 祐子, 立山清美, 赤松 めぐみ, 有川 真弓, 山田 孝: 感覚統合療法の効果研究に関わる基礎的調査. 感覚統合研究 15(1): 51-60, 2015.
- ・宮嶋 愛弓, 立山清美, 矢野 寿代, 平尾 和久, 日垣 一男: 自閉症スペクトラム障がい児の食嗜好の要因と偏食への対応に関する探索的研究. 作業療法 33(22), 124-136, 2014
- ・立山清美, 山田孝, 清水寿代: 青年・成人前期用感覚チェックリスト作成に関する予備的研究—大学生・専門学校生を対象とした JSI-R(日本版感覚インベントリ—改定版) の特徴. 日本保健科学学会誌 15(4): 231-239, 2013.
- ・立山清美, 宮嶋愛弓, 清水寿代: 自閉症の食嗜好の実態と偏食への対応に関する調査研究. 浦上財団研究報告書 20: 117-132, 2013.

5. 現在の指導している大学院生数

M1: 1名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか?

発達障害領域の作業療法、家族支援などを研究テーマにする方を歓迎します。発達障害のある方への支援が、広く取り込まれるようになってきました。しかしながら、発達障害のある方への支援の効果に関する研究、ADL に関する研究など様々な研究課題がある領域です。社会人の場合は、研究したいことが明確で、ある程度の計画をもっていること、フィールドの確保ができることが必要かと思います。一緒に研究に取り組みましょう!